

## 坂部地区

～農業を通じたつながりづくり「農援隊」～

坂部地区では、平成24年度に坂部地区まちづくり計画を策定し、現在は4つの活動分野ごとにグループを立ち上げ、幅広く活動を展開しています。中でも「農援隊」事業では、JAハイナンの協力の下、耕作放棄地を利用して坂部の新たな特産品を生むための試験栽培に取り組んでいます。これまでにブロッコリーや秋とうもろこし、アブラナ科のロマネスコという野菜の産地化を計画し、平成29年7月に無人販売をスタートさせました。



いけがや かつまも  
池ヶ谷勝恵茂さん

「普段農業に携わっていない人や定年退職した人も、農作業を通して一歩家の外に出ることで、自然と地域での新たなつながりができることを実感しています。

『一緒に畑へ行こう!』と声を掛け合い、苗の植え付けや収穫など、みんなでゆるやかな時間を過ごしながら楽しく活動しています。居場所作りは、きっかけ作り。この『農援隊』をきっかけに、一人でも多くの人々の心地よい場所になればと、誰もが参加しやすい雰囲気づくりを心掛けています」

## 菅山地区

～菅山絆づくり「うんどうかい」～

菅山地区では9月10日、小学校のグラウンドを会場に地区全体の運動会を開催しました。14ある区内の組ごとに色違いの旗・タスキ・ハチマキを用意し、各組が団結力を高めて玉入れや綱引きで競い合いました。当日は、菅山保育園の園児によるダンスの披露や、JAハイナン菅山支店からのおいしい冷茶サービスもあり、地域が一体となって盛り上がる運動会となりました。昼休みには、「絆づくり委員会」の皆さんによる「絆戦士KARTショー」が行われ、子どもから大人までが一緒に楽しみました。



細江地区では11月5日、地域の防災意識を高めようと、細江コミュニティセンターを会場に「防災フェス」を開催しました。

当日は、地震体験車・救急救護講座・防災食クッキング・防災食展示の4つのブースを設置しました。

救急救護講座では、三角巾の巻き方や、身近なもので作る担架やスリッパの作り方を参加者が一緒になって学び、災害時にお互いを助け合うための一歩につながりました。

## 細江地区

～みんなで学ぼう!「防災フェス」～

# 地域力を高めよう ～住みやすい地域づくりのために～



**「地域の絆づくり事業」とは**  
地域で抱えている課題を自分事として考え、自分達の手で解決し、地域を良くしていくことを目的とした事業です。そのプロセスを通じて、区や町内会、各種団体の枠を超えた連携体制の構築や、まちづくりを進める人材を育成することを目指しています。さまざまなつながりをもとに、災害時など、もしもの時もお互いに支え合う地域づくりを進めます。

各地区が主体となった「地域の絆づくり事業」では、それぞれの地域の人・モノ・場所などの特色を生かして、住みやすい地域づくりのためにさまざまな取り組みが進められています。活動を通してゆるやかに人とつながり、地域をもっと好きになる。そんな各地区の平成29年度の活動をご紹介します。

問い合わせ 地域振興課 櫻井 ☎0053



**「地区自治推進協議会」とは**  
平成24年度、市内10の小中学校区ごとに具体的に地域の課題解決に取り組む組織として、「地区自治推進協議会」が設置されました。この組織は、地域で活動する人達の連携や協力を進める役割を担っています。これまでに幅広い世代から出された地域を良くしたいという思いとアイデアが、現在の各地区のさまざまな活動につながっています。

## 萩間地区

～繋がり、続ける「萩間の絆」～

萩間地区では、普段は活動分野ごとに分かれて活動を進めながらも、お互いの持ち味・役割を生かした連携体制を作り上げています。例えば、耕作放棄地を利用したそば栽培とそば打ちを主な活動とするグループが「種まきイベント」を実施する際、参加者の送迎は、普段地域のお年寄りの送迎支援をしているグループが担当します。また、ウォーキングを担当するグループがイベントを開催する際には、参加者へ手打ちそばを振る舞うこともあります。イベント時には、地区内の身近な企業や団体に声をかけ、地区全体を巻き込む仕掛け作りをしていることも萩間地区の特徴です。

「実現が難しいと思われていた送迎支援活動も、清風園、社会福祉協議会、ライフサポーター会員の皆さんの協力により、平成29年度から実行に移すことができ、とてもありがたく思います。一度関わりができると、逆に依頼してくれたり、絆づくりメンバーとして共に活動してくれたり、新たなつながりを感じています。大事なことは、強制をしないということ。『できる人が、できる時に』をモットーに、柔軟で参加しやすい雰囲気づくりを心掛けています。これからも、お互いに必要な時に気軽に声を掛け合える関係を大切にしていきたいと思っています」



八木公代さん、永田静男さん、中田静子さん

## 相良地区

～「防災マップ」で6つの区を一つに～

相良地区では、平成28年度に開催した津波避難ビルなどをめぐる「防災ウォーク」をもとに、平成29年度は「防災マップ」を作成しました。避難地までの危険箇所を防災マップへ反映させるため、各区でのウォーキングを開催した後、何回も話し合いの場を重ねて完成した「防災マップ」は、相良地区内の全ての家庭や小学校、病院などの施設に設置され、現在多くの皆さんの手元に届けられています。相良・福岡・波津・須々木・大沢・大江の6つの区が一つになって活動している相良地区の絆づくり事業ですが、どの区にも必要な「防災」というテーマでつながりました。

「地図を作るという一つの目的に対して、普段は関わりが少なかった他の区の皆さんと一緒に活動できたことが良かったです。活動を重ねていく中で、『絶対にみんな助け合いたい』『もしもの時はお互いに助け合おう！』という意識の高まりを感じました。この出会いをきっかけに地区の中でつなぐ力を強め、さらなる防災対策ができればと思います。また、この防災マップは、子ども達の生活のあらゆる場面で想定される災害時の対応をイメージできるものなので、安全・安心に役立ててもらえることを願っています」



今野朝子さん

## 片浜地区

～地域を一つに「片浜のまちづくり」～

片浜地区は、①旧片浜小学校の利活用、②海の魅力発信、③マルシェ開催、④居場所づくり「いいとこまんじゅう」の4本の柱を立てて活動を進めています。中でも居場所づくり「いいとこまんじゅう」では、旧駐在所などを活用し、老若男女が気軽に集い交流できる場所づくりを目指しています。1泊2日のサマーキャンプや餅つき大会などの場を通して、子ども達と地域がつながる機会を大切にしています。



勝間田地区では、勝間田公園や「ゆうゆうらんど」を拠点として、地域の交流を深める活動を展開しています。2月11日には、市内の小学生・未就園児を対象とした現代版鬼ごっこ「ゆうゆうらんどで逃走中」を開催し、約300人の参加者が集まりました。また、「さくらまつり」では、NPO法人勝間田塾の皆さんによる竹細工、竹トンボ作りをはじめ、物品販売、ブックカフェ、尺八コンサートなどを実施しました。地域の各種団体とのつながりを大切に、誰もが楽しめるイベントを、多くの人の手で作り上げています。

## 勝間田地区

～公園を拠点に「交流の場を創出」～



牧之原地区では、花と笑顔の絆づくり事業を平成28年度から実施しています。ジニアの花（花言葉：絆）の苗と鉢を全戸へ配布して各世帯で花を育て、隣近所での会話のきっかけ作りを行いました。平成29年度は、晴れ渡る空の下、子どもからお年寄りまで総勢100人を超える参加者が集まり、あじさいの苗とみんなで作った「たねダンゴ」を土手に植えました。また、この土手を誰にとっても親しみやすい場所にしようと、名前を参加者から募集し、「花咲くあじさいの道」に決定しました。

## 牧之原地区

～花いっぱい笑顔いっぱい活動「あじさいの苗植え」～

## 川崎地区

～地域の魅力を伝える「乱舞祭」～

川崎地区では12月10日、多くの人による賑わいを創り出すとともに、川崎地区の魅力をより一層高めて市内外へ発信するため、地区が主体となって、ダンスイベント「乱舞祭」を榎原庁舎前ふれあい広場で開催しました。全10チーム、約150人が参加し、あらゆる世代が一緒になって楽しい時間を過ごしました。

